

平成 28 年度第 3 回総合教育会議 議事録

1. 開会日時 平成 29 年 2 月 22 日（水） 16 時～17 時 35 分
2. 会議場 松浦市役所 4 階 第 4 委員会室
3. 出席者
 - 松浦市長 友広 郁洋
 - 松浦市教育委員会教育長 今西 誠司
 - 〃 教育委員 武部 周清、白石しのぶ、市原 義光、島田茂明
 - [事務局] 学校教育課 加藤 洋一、
 - 教育総務課 星野 真嗣、土谷由子
 - 生涯学習課 近藤 寿一
 - 文化財課 中田 敦之
 - [関係課] 政策企画課 川浪 剛人
4. 内容
 - (1) 市長挨拶
 - (2) 教育長挨拶
 - (3) 協議
 - ①平成 29 年度教育委員会関係の主な事業について
 - ②平成 29 年度教育委員会体制について
 - ③その他 報告 松浦高校支援について
5. 傍聴人 無
6. 発言の詳細 以下のとおり（要点記録）

【発言者】	【内 容】
教育総務課長	只今から平成 28 年度第 3 回松浦市総合教育会議を開催いたします。はじめに友広市長がご挨拶申し上げます。
市長	皆様こんにちは。本日は第 3 回松浦市総合教育会議ということで、ご案内申し上げましたところ、ご多忙の中ご出席いただきまして厚くお礼申し上げます。年度末を控えておりまして 28 年度の実績と合わせ 29 年度の準備に取りかかっているところです。 前回の総合教育会議においては、28 年度の全国・県学力調査の結果をはじめ、松浦市の小中一貫教育の在り方、また、教育委員会組織の在り方等についてご協議いただき、貴重なご意見を頂戴しました。 今回の総合教育会議においては、次第にありますように 29 年度教育委員会関係の主な事業について、また、29 年度の教育委員会体制についてとし、市長部局も若干組織改正を行うこととしておりますので、その点についてもご説明したいと思っております。本日は関係課の川浪主幹を呼んでおりますが、松浦高校支援についてもご報告申し上げ、限られた時間ですがご意見をいただけたらと思います。よろしくお願ひします。
教育総務課長 教育長	続きまして、今西教育長にご挨拶をお願いいたします。 教育委員を代表しまして、一言ご挨拶申し上げます。本日は、今年度

<p>教育総務課長</p>	<p>第3回目の総合教育会議ということで、こうして友広市長との協議の場を設けていただき、誠にありがとうございます。また、友広市長におかれましては、日頃から教育行政の推進に向けハード面、ソフト面にかかる予算の確保等でご配慮いただいておりますこと、重ねて感謝を申し上げます。</p> <p>お陰様で今年度は、福島養源小学校の開校を始め、福島中学校の校舎建設着工、また、市内小・中学校におけるパソコン・電子黒板の整備といった教育環境の整備を行うことができました。また、児童・生徒においては、落ち着いた環境の中で学校生活を送っておりまして、スポーツ面では、少年野球・水泳・自転車・なぎなた等目覚ましい成績をあげることが出来ました。また、全庁挙げてご協力いただきました市制10周年記念の「子ども会議」が開催できたことも大きな成果だと考えております。また、次年度は、いよいよ鷹島神崎遺跡の調査研究を推進するために水中考古学研究センターを設置し、我が国における水中考古学の拠点とするための第1歩を踏み出すこととしております。</p> <p>教育はひとつづくりとまちづくりの根幹です。友広市長におかれましては今後も引き続き教育行政推進に対するご尽力をお願い申し上げます。</p> <p>ありがとうございました。本日は政策企画課の川浪主幹他、教育委員会事務局4課長が出席をしております。それでは、これから協議に移らせていただきますが、議事進行は運営要綱第5条の規定により友広市長が行います。よろしく申し上げます。</p>
<p>市長</p>	<p>それでは、私が進行をさせていただきますのでご協力をお願いいたします。本日は、2項目の協議と1項目の報告を予定しておりますので、よろしく申し上げます。</p> <p>それでは、早速、29年度教育委員会関係の主な事業について議題といたします。日頃から教育委員会におかれましては「教育のまち松浦」の実現に向けて取り組んでいただいているところですが、29年度も引き続き様々な施策を積極的に展開していただければと思います。私は松浦の子どもたちは素直で優れた素質を持っていると思っておりまして、子どもたちが確かな学力を身に付け、健やかに成長できるように、親や行政を預かるもの、そして地域がしっかりと育てていく責務があると思っております。そのような思いから、私としても29年度は教育や子育ての事業の予算に関しては意を注いだというか、重点的に予算を配分させていただいたところです。3月3日から始まります市議会の冒頭にも定住促進・少子化対策及び教育環境整備という地域社会の最重要課題の対応を重点的に進めることを申し上げることと致しております。3月議会の新年度当初予算を議会に諮る前で、若干抽象的になるかもしれませんが、ご理解いただいて29年度の教育委員会に係る新規事業や主な事業を中心にそれぞれの担当課から説明いただいた後、皆様から疑問やご提案、ご意見をいただければと思いますのでよろしく申し上げます。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>教育総務課・学校教育課分について説明いたします。まず、学力向上に向けた事業ということで、6事業掲げております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教員補助員配置事業（教育支援員を市内小中学校に20名配置） ○少人数指導事業（H28年度から市独自事業：市内中学校に4名の数学の非常勤講師配置）

<p>生涯学習課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校学力テスト事業（小学2・3・4年生対象：国語算数2教科の学力調査：県・国対象の5・6年生と1年生を除く学年の調査） ○小学校学力向上事業（H28年度から独自の取組：小学校研究指定校委託料・講師謝礼等：H28は調川小学校） ○中学校学力テスト事業（中学1年生対象：国数英社理実施：県・国対象の中1・2年生を除く学年） ○中学校学力向上事業（H28年度からの独自取組：中学校研究指定校推進事業委託料等：H28は御厨中対象） <p>体力及び運動技術向上に向けた事業として</p> <ul style="list-style-type: none"> ○運動部活動等活性化事業（運動技術の向上：7競技：陸上・野球・バスケ・バレー・ソフトテニス・卓球・駅伝：講習会や技術指導） <p>教育環境整備として</p> <ul style="list-style-type: none"> ○福島中学校校舎・屋内運動場改築工事の実施（屋内運動場工事管理業務・グラウンド等詳細設計業務・法面保護工事・屋内運動場改築工事等） ○小学校ICT整備事業（教職員用のパソコン整備・調川、今福、福島養源、鷹島小学校への電子黒板等整備） ○操作等を指導するICT支援員の1名配置 ○中学校ICT事業（全中学校の生徒用・教職員用パソコン整備、調川・今福・福島・鷹島中学校電子黒板とパソコン等整備） ○学校給食費助成事業については市長のマニフェスト事業として継続（児童・生徒2人目以降の給食費について半額助成） <p>生涯学習課関係の29年度の主な事業を説明します。</p> <p>生涯学習施設の整備として</p> <ul style="list-style-type: none"> ○公民館整備事業（上志佐公民館エレベーター整備・調川公民館基本計画策定のための地元協議） <p>読書の推進として</p> <ul style="list-style-type: none"> ○図書館資料充実事業（図書購入） <p>交流事業の推進として</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国際・国内交流事業（マッカイ市からの訪問団受入：北海道鷹栖町・福島町・長野県木曾町との生徒学習交流事業） <p>なぎなたの町松浦の推進として</p> <ul style="list-style-type: none"> ○なぎなた育成強化事業（トップアスリート招聘・なぎなた合宿等） <p>体育施設の整備として</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今福地域スポーツ施設整備事業（野球場機能を有するグラウンド整備：来年度末完成） ○今福夜間照明設備機能回復事業（地元関係者との協議中）
<p>文化財課長</p>	<p>文化財課の29年度の主な事業について</p> <p>鷹島を日本の水中考古学の拠点に：鷹島神崎遺跡の保存管理計画の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○モニタリング調査事業（鷹島1号沈没船・2号沈没船・一石型礎石モニタリング調査） ○発掘調査事業（鷹島2号沈没船の発掘調査） ○海底音波探査事業（鷹島海底遺跡船唐津免地先の海底音波調査） ○地域の特色ある埋蔵文化財活用事業（鷹島2号沈没船検出状況復元

<p>市長 教育総務課長</p>	<p>模型製作・台帳整備等) ○水中考古学研究事業（鷹島海底遺跡を介して大学・行政との共同研究のコーディネート及び鷹島神崎遺跡の情報発信） ○埋蔵文化財センター一部改修事業（ガイダンス施設展示施設の一部改修と展示ケースの購入） 埋蔵文化財 ○市内遺跡の発掘調査事業（市内遺跡の確認調査） 福島中学校の校舎にかかる予算についての説明を加えてください。 福島中学校の校舎建設については今年度から着手しておりますが、当初2か年の継続事業ということで予算を組んでおりました。29年度の当初についても中学校の建設事業が入ってくる予定だったのですが、国の補助金等の内示がありまして、2か年分の補助金が今年度入るようになりましたので3月の補正予算に、29年度予算で計上する予定分をつけて対応することとなりました。中学校校舎については、28年度繰り越し事業として進めていくこととしております。</p>
<p>市長 生涯学習課長</p>	<p>金額的には385,000,000円となっております。今福地域スポーツ施設整備事業についても詳しく説明をしてください。 28年度は約1億で土地造成等の事業を行っております。25年度から実施設計や地質調査等を行い、最終的に今福地域のスポーツ施設を含めて6億8千万程の事業費となっております。土地造成に関しては、当初の予定からは開発許可の関係で遅れておりまして、もとの発注より1か月半程度遅れたもので、土地造成に絡む付帯工事を繰越して3月議会にご提案しております。最終的には照明施設を含めまして6億8千万円の事業となっております。</p>
<p>市長 教育長</p>	<p>教育委員会の29年度の主な事業と予算について、それぞれの課の新年度の主な事業について説明をいただきました。皆様から何かご意見ご質問等はありませんでしょうか。 市長が申された子どもたちの学力向上についても、少人数指導事業等の予算をつけていただいて有り難いと思っております。その分頑張らないといけないと思う中で、次年度に向けて教育支援員の処遇についても改善をしていただいて大変ありがたく思っております。ICT機器の整備では、県内でも全ての小中学校に電子黒板を配置しているところは見られないという中で、来年度で整備が完了することについても授業の改善に向けた効果のある予算化ということで、現場としてはそれをしっかり生かしながら、学力向上に向けた取組をしていかなければならないと思っております。</p>
<p>武部委員 学校教育課長 補佐</p>	<p>また、鷹島神崎遺跡についての調査研究を推進して水中考古学の拠点にするという大きな目標がありますので、それに向けた取組をしていくためには、施設と人材の確保が第1になってくると思います。その点についてもご配慮いただいております。 学力向上についても少人数指導事業で4名の非常勤講師を配置していただいておりますが、この4名は、新年度はどの学校に配置されているのでしょうか。 市内5つの中学校に配置しているのですが、29年度は4名となっております。これから状況を確認して配置していきます。</p>

武部委員	<p>中学校は7校ありますが、4名なら3校は配置しないということになりますね。</p>
学校教育課長補佐	<p>配置したいのですが、残念ながら4校となります。</p>
武部委員	<p>この少人数指導事業を参観したときに非常に良かったのです。学力向上に効果的だと思いました。</p>
市原委員	<p>国や県が実施していない学年に対する学力テストを実施するというの</p>
市長	<p>は、底上げに大きな効果があるだろうと感心しております。また、文化財に関して水中考古学の拠点ということで多くの予算をつけていただいているようで、非常に鷹島神崎遺跡を最重要な拠点にいただいているなという思いがこの予算で分かりました。</p>
市長	<p>教育委員会の方で、例えば枠内でやり取りする等、柔軟に対応して効果的な予算の使い方を現場の声を基に、配慮して良いのではないかと思います。</p>
市長	<p>他にないようですので、このことについては何かあればまたご意見をいただくこととして、次に「平成29年度教育委員会体制について」に移らせていただきますがよろしいでしょうか。</p>
〔全委員〕	<p>〔異議なし〕</p>
市長	<p>このことにつきましては、教育委員会の専権事項ですので、私が申しあげるのはいかがかと思いますが、前回の総合教育会議において、教育委員会の組織内での業務分担の見直しが必要かどうかを含めてご検討いただければということと、水中考古学の拠点ということについて、その組織を立ち上げることについてご意見をいただきましたので、12月の議会において、鷹島埋蔵文化財センターと鷹島歴史民俗資料館を統合し、松浦市立埋蔵文化財センターとし、埋蔵文化財センター内に水中考古学研究センターを設置するよう関係議案を提案し議決をいただいているところ</p>
市長	<p>です。</p>
市長	<p>九州国立博物館で水中文化遺産のフォーラムが2月12日に開かれた時にも琉球大学、文化庁からお見えになって、松浦市の取組については高い評価をいただいております。また、2月15日の市と琉球大学との鷹島神崎遺跡発掘調査連携協議会でも水中考古学研究センターについて説明を行い、松浦市の本気度を認めていただき、池田教授らがプレッシャーを与えられたということでした。これまでは大学の学部で取り組んでいただいておりますが、これからは琉球大学として取り組んでいかれるということになります。当初は4名体制でいければと思って、決定ではないですがそのような人事を考えております。新年度の教育委員会の体制については、このように考えているところです。</p>
市長	<p>市長部局も交流人口の拡大に取り組もうということで、今議会に提案させていただきます。現在の商工観光課と企業立地課を合体させて、新しく商工振興課と食と観光のまち推進課の2つの課に改編したいと考えております。商工振興課には商工振興係と企業対策室ということにしております。食と観光のまち推進課には、観光物産係と福岡事務所を置くということで改編することとしております。福岡都市圏の活力を松浦にということで取り組ませていただいております。これまで福岡都市圏の皆様に松浦を知ってもらおうということでアンテナショップを設けてやっていたわけですが、鷹福バル松浦もこの3月で5年間の契約</p>

	<p>満了ということですが、引き続き、今後は何としても福岡都市圏を中心とした方々に松浦に来ていただいて、グルメ・観光を楽しんでいただきたいということからストレートに食と観光のまちというのを課の名前にして取り組むこととしております。結構反応もありまして、様々な食のイベントを松浦で行ってはどうかという提案もあっております。食のPRとして、松浦の観光を図っていこうとですが、ただ、食や観光は行政が主体になるのは難しく、民間がやるべき分野だということで今後、松浦商工会議所、福鷹商工会、松浦観光物産協会、まつうら党交流公社と連携してやっていければと思っております。4団体の会長等とお話をしてご理解いただいたのですが、民でも受け皿をお願いできないかということに対しては、少し温度差はありましたが、積極的に取り組もうという団体もありました。まずは、議会の議決をいただかなければいけないので、そのために頑張っていかなければならないと思っております。</p> <p>また、魚市場の再生についてですが、昭和54年10月に改良してから現在、施設の老朽化が進んでおりまして消費者のニーズに合わないということで、安心安全な市場でなければなりません。将来的に設けられる安全基準にも対応できる施設となっております。それからアメリカ・イギリス・ヨーロッパにも輸出ができる市場（高度衛生管理）ということにしております。施設も閉鎖型にして、このことは衛生管理が徹底した施設ということで作業環境も改善されることとなります。現段階では、33年度まで53億かかると思っております。目標としては難関水揚げ量を10万5千トン、これくらい揚がると経営も安定するということです。27年度は10万トンを超えているようですが、28年度は8万トン程ということでした。こういうことから水産課も水産振興係と施設管理係にすることとしております。</p> <p>企業立地課については、メリハリをつけるということとしております。</p> <p>以上報告と今後の考え方について述べさせていただきました。このことについて、何かございますか。</p> <p>魚市場は半分ずつ取り壊すということでしょうか。移転ではないのですね。</p> <p>営業しながらやることとなります。まずは、事務所を作って魚舎を解体しながら整備していくこととなります。他にありますか。</p> <p>無いようですので、予定していた協議は終わりました。次に報告事項として「松浦高校支援について」ご報告いたします。本日はまず松浦高校支援事業について、政策企画課の川浪主幹に報告していただきます。</p> <p>政策企画課で、松浦高校支援事業について取り組んでおります。資料をもとに説明いたします。背景とこれまでの取組ですが、25年度から支援事業に取り組んでおりまして、本年度が最終年度となっております。背景ですが、長崎県立高等学校改革基本方針においては、学校の適正な配置の基準として、1学年3学級以下の学校は2年続けて1年生の在籍者が募集定員の3分の2未満の場合、原則として統廃合を検討することとされております。24年度は1学年4学級でしたが、160人定員に対し、入学志願者は87人と54%でした。その後、推移する少子化の傾向を踏まえると松浦高校は閉校の対象校として存続の危機を迎えることが予測されておりました。このことを受けまして、松浦高校は25年</p>
武部委員	
市長	
政策企画課主幹	

度から普通科の定員を半数の80人として更に40人の商業科を設置され120人の定員とされました。

市としても学校の閉校は地域の疲弊に繋がるため、地域唯一の高校の存続に向け、25年度から松浦高校支援事業を開始し、生徒の確保に努めております。支援内容に関しては、市として保護者の負担軽減を目的として、入学準備金・下宿費・航路通学費・模擬試験受験料・就職模擬試験料・資格試験受験料・補修受講費用の補助等の取組をしております。

27年度に地方創生事業という大きな流れが飛び込んできて人口問題対策を市としてやるということで、本市の人口減少の大きな要因として若年層の域外流出の原因は都会への憧れ、地域に大学や専門学校が存在しないこと、希望する就職先とのマッチングの課題などがあげられます。最も大きいのが若年層の流出が人口減少の要因となっております。この対策としては、地域において、若者にとって魅力的な仕事をより多く創出することが必要になりますけど、高校を卒業するまでの間に地元愛の醸成や企業を含め地場産業を良く知ること重要になってきます。また、進学を希望する子ども達は、将来、ふるさとに回帰し、活躍できるイメージをしやすい場面づくりが重要になるということで、27年度からは、まち・ひと・しごと創生総合戦略の柱のひとつとして「松浦高校の魅力向上」に取り組むことにしました。28年度は新たな事業を加えて取り組んでおります。市報の毎月の企業紹介では「わがまちの頑張る企業」を設置しました。松浦高校においては「なるには講座」といって企業の方が高校に訪問して授業の時間に口講座を開いておられます。その他、松浦市合同企業面談会、キャリア学習への支援、文化部芸術祭への支援拡充、オープンスクールへの支援、市報への松浦高校支援事業の特集や毎月の松浦高校コーナーの設置等を行っております。参考ですが、鹿町工業においても企業立地課が主に取り組みを進めていて、地元企業就職セミナー、鹿工祭での地域企業展示会、鹿工の生徒を対象とした地場産業バスツアー等を行っております。

今福中学校においては、地場企業を知るためのフィールドワークを学校教育課と連携をとってやっております。

支援をしながらの志願者の推移ですが、24年度が87人、25年度101人、26年度が109人、27年度は91人、28年度は96人、29年度は2月20日現在で124人となっております。(最終は未定)

29年度以降の取組としては、高校と協議を重ねて参りまして次年度からは保護者の負担軽減による生徒確保の次のステップとして、魅力向上と地域連携を柱として取り組むということを考えております。これまでの保護者の負担軽減に加えて、高校の魅力向上による生徒確保と地域連携によって郷土愛を醸成し卒業後の定住やUターン者の増につなげることを目的としております。2つの柱の1つである魅力向上については宣伝効果が強く、即効性がある部活動の強化支援をやりたいということです。大学合格者数や就職率のアップなど数値として見えやすいものの向上に加え、松浦高校の強みである駅伝、野球、なぎなた、放送などの部活動に対する強化に伴う支援を行います。さらに29年度から陸上部の合宿所が里にあるのですが、高校では維持しがたい(閉鎖)という意向がありましたので、市が譲り受けて高校に貸し出せないかということ

で進めております。また、下宿費の支援拡充を行いたいと考えております。寮費に関しては、特別推薦、離島、準離島、地域外枠の下宿費の支援拡充として、県外から住民票を移される方もいらっしゃるという聞いております。そのような方に対しては支援を活用できないかと考えております。その財源として入学準備金を3万円補助してはいたしましたが、これを減額して行いたいと考えております。入学準備金については、制服購入費補助として目的を明確化させようと考えております。

地域連携事業に関しては、地域に愛される高校づくりを行うとともに、今後の大学入試改革を見据えて行うのですが、2020年をめどに改革が行われます。これまでの記憶型ではなく、思考力・表現力などの汎用的能力を重視されるということで、どちらかというAO試験に近い性質が強くなると言われております。このために地域の課題解決などの実践的なキャリア教育に高校と行政が連携して取り組みたいと考えております。内容についてはまず、文化部芸術祭への支援、それから昨年度からNPO法人によるキャリア学習プログラム支援、3つ目が29年度から行うもので、地域課題を高校生に知ってもらい、高校生が課題解決の当事者としてどのように取り組むべきかを年間を通し、総合的な学習の時間を活用してプログラムを行いたいと考えております。このようなことにも高校と行政の連携が必要になってまいります。行政と連携した地域課題解決などの実践的なキャリア教育は、高校生には今後の大学入試改革に効果があり、大学合格者数や就職率の向上は、高校の魅力向上に繋がるとともに行政としても課題解決のアイデアをいただけたらと思っております。

次期支援事業は29年度から31年度（まち・ひと・しごと創生総合戦略終期）までを計画期間としております。目標はこれまでの高校存続から高校とともに取り組む松浦の魅力化ということでステップアップを考えております。

以上が29年度なのですが、現在の取り組みとして、既に取り組んでいることがあります。女子中学生が高校を選ぶ際の素材として高校の制服のデザインというのが大きなポイントになります。魅力向上と地域連携を目的として30年度入学生を対象とした制服のリニューアルを進めております。現在の制服に関しては30年近くデザインが変わっていませんので、良いタイミングではないかと考えております。現在、高校生、高校教諭、市職員（地域おこし協力隊）で構成する制服プロ弱と実行委員会を立ち上げ進められております。3月19日の文化部芸術祭（文化会館）において、全国の既存の制服から数点を用い、松高生がモデルになってファッションショーを開催し、制服のリニューアルをとおした目的を告知し、その後デザインを決定し、夏のオープンスクールにおいて新制服のお披露目を行うこととしております。デザインにおいては、独自のタータンチェックを作成し「Matsuura Tartan」として英国から認定を受ける計画をしております。このチェック柄ができれば制服に限らず、青の大学とのコラボを始め市としても様々なシーンで活用の可能性が広がると考えております。縫製には地元企業（エミネント）にも関わっていただいで「maid in matsuura」による松浦高校の制服を作成することができればと考えております。

<p>武部委員 政策企画課主幹</p>	<p>1年前から取り組んでいる、松浦高校の支援事業を参考にした時にどういところが先進地としてあるかなとみたときに24年度に熊本県の芦北高校があり、参考にしたのですが、芦北高校は29年度の入学者に対する制服のリニューアルをされているのですが実績として120人の定員に対し28年度の志願者は67人(0.55)でしたが、29年度は、前期が60人に対し93人、後期が60人に対し57人ということではほぼ定員並の志願者となり効果があったということです。</p> <p>女子学生の志願が多くなったということですか。</p> <p>芦北高校について、何かできないかということで、市が予算を出して熊本出身のアイドルをモデルとしたようで、それで全国から注目を浴びたということのようです。松浦市もデザインはアイドルのデザインを担当している業者と連携をしておりますが奇抜なものにはなりません。</p>
<p>武部委員 政策企画課主幹 市長</p>	<p>男女の比率は分かりますか。</p> <p>そこまで調べておりません。</p>
<p>政策企画課主幹 市長</p>	<p>これまでは、市内高校の存続ということで経済的な支援を行っておりそれなりの効果があったと思っておりますが、やはり生徒に選んでいただく松浦高校の魅力化ということで研究をし、保護者の負担軽減という事から高校の魅力化と地域連携というところに取り組んでいくこととしております。この取組についてのお尋ねと松高支援について他にも何かできることがあるのか、このような支援を検討してはどうかといったようなご意見・ご提案等がありましたらお願いします。</p> <p>予算としてはどれくらいの実績でしょうか。</p>
<p>政策企画課主幹 市長</p>	<p>28年度の実績で1,350万円程度です。29年度は1,100万円程度を当初でお願いする予定です。</p> <p>160人定員から120人定員となっているのですが、定員を超えたのは12年ぶりということですか。</p>
<p>政策企画課主幹</p>	<p>120人しか入れないということではないようで、学力で121番目と差が無ければ121、122でも構わないということも伺っております。</p>
<p>武部委員</p>	<p>3万円の減額がリニューアルする制服代になるということでしょうか。</p>
<p>政策企画課主幹</p>	<p>予算については、現在の制服購入費と同等でつくるようにして、高校の制服を入学時に支援しようとするともっと費用がかかります。男子が31,100円、女子が29,500円となっているのですがこの他に靴やバック、体操服で合計7~8万円はかかります。おさがりを活用される方もいらっしゃいますし、これまでは7~8万円かかる中から3万円を準備金として出しますよとしていたのですが、様々な方からご意見をいただく中で、それが本当に準備金に充てているのかが不明だということがありましたので、今後は明確にして制服代に充てていただきたいと思っております。</p>
<p>武部委員 政策企画課主幹 白石委員</p>	<p>男子の制服も対象でしょうか。</p> <p>男子も対象です。</p> <p>保護者としての考えですが、制服について水を差すようですが、現在も松浦高校の制服は評判が良く、他の高校と比べてもとても可愛いということで、高校生らしくて良いと思っております。また、卒業時に殆ど</p>

<p>政策企画課主幹</p>	<p>おさがりを予約して活用している状況です。ですから最初にこの企画を見た時に影響するのかなと思ったのですが、アンケート等は現在の高校生に聞かれたのでしょうか。変えた方が良いという意見が多かったのでしょうか。先輩のおさがりが欲しいとっていただくことも多いと聞いています。</p>
<p>白石委員</p>	<p>変えて欲しいという意見があり、おさがりばかりで古くなっているものを着ている生徒がいて、おさがりの良いところもあるのですが、すり切れたようなものもあり、生徒指導の面からは30年近く経っているのでこの機会に変えるのが良いという意見と再来年は生徒数が160人台になることが予想されますので、そこで松浦高校の生徒を定員の3分の2以下にならないようにしなければ、以下になってしまいますと閉校の対象になってしまい、続けて2年となると統廃合の対象となってしまいますので、タイミング的には一番良いのかなと考えております。</p>
<p>市長</p>	<p>先ほど出席しました「松高みらい教育懇話会」でも話題になったのですが、高校生の食事についてPTA会長等からの意見で、食育がとても大事で朝ごはんを食べてこない生徒も多く、小中学校の時はアンケートを取って状況を把握していましたが、高校は校長先生に聞くとそういった実態調査はしていないということです。聞くと朝ごはんを食べていない生徒がいるということで、もし給食を高校でできるということになれば、唐突な意見で無理とは思いますが、この話をした時に校長先生も松浦高校の目玉の一つにはなるのではないかとと言われて、給食センターも松浦市の直営になりましたし、せっかくなら活用して高校でも給食を提供できればと私は思うのですが、行政や学校など色々大変かと思いますが、意見として出してみました。</p>
<p>政策企画課主幹</p>	<p>制服については、政策企画課主幹が説明したように成果が見込めるということで生徒や先生方と相談のうえ踏み切ったということでご理解をいただければと思います。</p> <p>これまでも色々松高の支援には取り組ませていただき、実現したものしていないものとあるのですが、白石委員から提案がありました高校による給食ということについては、私としては検討に値するのではないかと考えております。というのは、幸いにして12月いっぱいまでこれまでリース式でやっていた中央共同調理場は、松浦市が譲り受けるということになっておりますので、これからは松高の給食を実施することについては、施設としては若干の改造もできますし、市の判断で可能となります。そういうことからすると、これをすると松高の定員確保ができるということにはならないので、次の支援や取り組みすることであれば、白石委員が言われたように保護者の立場からすると給食というのは一つの魅力になるのかなと思います。ただ、今ここでどうこう決めるのではなく、担当課と話し合っただけであればと思います。</p> <p>29年度から高校と共にやろうとしている地域課題の解決のプログラムですが、例えば、高校の給食についての導入等をテーマとして高校生に研究させるということで、学校の給食がどのようにしてできているのか、どれくらいの費用がかかるのか1年かけてフィールドワークをさせて、市に対して高校生としてどのような考えを持つのかを提示させるというのものもあるのかなと今、ご提案を聞きながら考えておりました。まだ、</p>

	<p>テーマを決めておりませんので様々なテーマで88人ほどの高校2年生を対象にグループに分けて、課題を与えて1年間フィールドワークさせたいと思っております。様々なご意見がいただければそれをテーマに勉強させ、一つでも課題解決につながれば将来のイメージにもつながると思います。</p>
市長	<p>生徒がテーマを決めるということもあるでしょうが、例えば行政側からテーマとして課題を提示し検討してもらうということも良いのではないかと考えます。結果的には喜ばれる、学校として是非ということになれば、資料にある中五島高校のパブリックワークのような取り組みができ、行政として給食についての提案もできるでしょうから。</p>
武部委員	<p>高校と行政が連絡を密にするということが重要という中で、「高校と市の担当者レベルの松浦高校魅力向上連携会議を設置し」とありますが、もう人選とかされているのでしょうか。高校と担当者だけではなくて、一般の方は参加しないのでしょうか。</p>
政策企画課主幹	<p>核となるのは、高校側から何人かの先生と市の職員を各課からオーダーして決めて必要に応じて、企業にも入っていただくという形もあります。</p>
武部委員	<p>白石委員が言われたように、母親としての立場からの意見も聞けるようにしていただければよいと思います。</p>
政策企画課主幹 島田委員	<p>この事業はまだこれからの事業ですので、どのようにでもなります。この支援事業については、松高みらい教育懇話会でも話しましたがこんなに手厚い支援をしているところはないと思います。実際に福島から通ったり部活動のために下宿をしたりしています。このような手厚い支援事業があるのは本当に助かると思いました。29年度から31年度の3年間ということですが、29年度入学する子どもたちについては3年間保障されているということですよ。では、それ以降に入学する子ども達についてはどうなのだろうかと考えます。途中でストップすることになるのか、先の見通しというのはいかがなのでしょうか。</p>
市長	<p>一つの制度をスタートさせると継続することが基本にならないといけないと思います。ただ、それを固めて継続していくのではなくて3年後ごとに見直して、松高支援も25年度からの見直しをし、支援をするということは動かさず、そのあり方について、検討していかなければならないと考えます。スタート時の「保護者の負担軽減のための支援」から魅力化へつなげていこうということです。行政を預かるものとしては気分屋ではいけないので、やり始めたものはしっかりと時代に合うようにと思っています。</p>
島田委員	<p>福島のような地域であれば、こういった支援というのは非常に大きいです。生徒が集まる一つの要因として支援事業が継続されるということがないと生徒確保にもつながらないのではないかと思います。</p>
市長	<p>大事なことだと思います。 それでは、予定時間も来ておりますので、以上で松浦高校支援について報告を終わらせていただきます。委員からいただいた意見については、この総合教育会議での提案ということで、武部委員からありました「行政と松高」に加えて幅広い方々のご意見をいただく組織というか会にしてはどうかということについても、そのような方向でやっていくという</p>

武部委員	<p>こと、また、島田委員からの支援というのはいはり継続性をもった支援をしてほしいということ、このことについてはやはり基本的な考えとして維持していくこととさせていただきたいと思います。ということで、貴重なご意見へのまとめとさせていただきます。白石委員からのご提案は、今後もんでいただくということとしたいと思います。その他、皆様から何かございませんか。</p> <p>今福地区のスポーツ施設整備に関して話し合いがあったのですが、その時に出席者がとても少なかったので、次回には多く集まっていって話しましょうということになりました。照明施設に関して回復することですので、金銭的に野球場に付けた場合、2億5千万円程かかるということだったので、そのことも踏まえて今福で話をし、よろしくお願ひしたいと思うのですが、よろしいでしょうか。</p>
市長	<p>生涯学習課長からもありましたが、6億8千万円の範囲内であればということです。ただ、野球場にナイター施設を整備する予定はありません。今福の小学校か中学校に設置するということが対応することになります。これまでの今福地域運動場の機能回復については約束事ですので場所が決定しなければ、機能回復もできませんので地域の皆さん方で話し合いをしていただいて、利用頻度等考慮され、虫を誘わない照明もあるということなので、まずは地元の方にご理解いただいて利用していただきやすいように地域でもんでもらいたいと思います。ただ、野球場に照明施設を設置するということはありません。</p>
島田委員	<p>29年度の事業をみましても予算確保がしっかりなされ、有り難いと思っております。福島の人間としても福島中学校の整備については順調に進んでおり、小学校校舎、中学校校舎、そして屋内運動場の整備が予定されておりました教育環境の整備にご尽力いただいて大変感謝しております。</p>
市長	<p>子どもを育てるのは我々の責任だと思っておりますので十分ではありませんが、できるだけソフト面・ハード面に力を入れていかなければならないと思っております。福島が終われば次は鷹島に移らないといけなと考えておまして、そろそろ鷹島もどのようなかたちで整備していくかご検討いただければと思っております。何十年も使って行かなければならない施設ですからある程度余裕をもつてもんでもらう、計画をしていただくことで市民の方に良かったねと言っただけのことと何十年後にもそれなりの評価がいただけるようにしないと申し訳ありませんので。</p> <p>他になければ、以上をもって平成28年度第3回総合教育会議を閉じさせていただきます。</p> <p>今日は大変貴重なご意見をいただきました。ここでお礼を申し上げますが、ご承知のとおり武部委員におかれましては、平成8年から20年の長きにわたって松浦市の教育委員として松浦の教育行政を担っていただきご尽力いただいたということで代表して心から感謝とお礼を申し上げます。色々と私も考えさせていただいたのですが、新制度になりました教育行政に関わることも市長が教育委員会と協議・調整できるようになりまして、委員には大変申し訳なかったのですが、教育委員の中に1人は行政経験者も入ってもらった方が良くはないかということで委</p>

	<p>員には無理にご理解をいただき、最終的には分かったと言っていた き議会にお諮りいたしました。皆さんご承知のとおり、松浦の様々な分 野で武部委員はご貢献いただいております。病院の事務長ということで 大変多忙なお仕事をされておられながら健康づくりということについて は松浦市健康づくり推進協議会の会長をされたり介護保険の問題や保健 センターの運営に関してご協力いただいたりして、市民にとって最も大 事な教育や保健福祉という分野においてご貢献いただきました。改めて お礼申し上げます。教育委員は離れられますが、経験を生かして松浦市 の発展にご協力いただけたらと思っております。私といたしましては、 感謝状を贈らせていただきたいと思いますと思っております。改めて武部委員のこ れまでのご尽力に敬意を表してご挨拶に代えさせていただきます。どう もありがとうございました。お疲れ様でした。</p>
--	--